

令和2年度小松市立国府小学校 学校評価1 (年度末)

めざす児童生徒像

自ら考え行動し、共に伸びる子 — やさしく かしこく たくましく —

- 【やさしい子】 対話する力 助け合い認め合う力 自他の良さに気づき伸ばす力
- 【かしこい子】 自ら考え伝える力 共に課題を解決する力 ふりかえりを生かす力
- 【たくましい子】 自ら律する力 挑戦する力 粘り強く取り組む力

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策		
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)						
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者				
(学校重点項目)	やかたの校風作り	3つの項目とも肯定的な回答が80%を超える	① 児童は、相手の立場や思いを考えて言葉を使うことができる (やさしく)	89	90	82	8	94	89	86	・「自分を伸ばそうと粘り強く努力している」については、2学期に様々な活動を行う中で、児童自らが達成感を感じたり、保護者がその様子を見ることで、児童の頑張りを実感する機会が多かったと思われる。 ・「相手の立場や思いを考えて言葉かけ」では、「やかた集会」等の友だちの良さを認める行動が身につけてきたと考えられる。	・学校だより、学年だより、メール等を通じて、児童の活動の様子を保護者に伝えていく。 ・目指す児童像や育てたい力について、保護者や地域と共有する機会が取れるとよい。	
			② 児童は、自ら学びに向かっている (かしこく)	95	84	70	14	89	83	69			
			③ 児童は、自分を伸ばそうと粘り強く努力している (たくましく)	95	87	65	22	94	91	69			
			集計	93	87	72		92	88	75			
重点項目	業務の改善	①が80%を超える	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	75				84			・日課の変更、校務のデジタル化など、教材研究や打ち合わせ等の時間の確保に向けた取り組みが進んできた。 ・実際の退勤時間も以前に比べて早くなっている。長時間勤務解消への教員の意識も高くなっている。	・来年度に向け、カリキュラムマネジメントの準備を行う。目指すべき目標を明らかにし、取組の精選と合科的な指導を行うことで、よりすっきりとしたカリキュラムとなり、業務の重点化が図られると考える。	
			② 学校全体で、勤務の効率化を図る取組が進んでいる	80				89					
			集計										
			集計										
小松市共通重点項目	学校研究	③が80%を超える	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	100				100			・研究授業の成果と課題をその都度明らかにし、日々の授業や次時の研究授業へつなげたことで、教師の授業を構想する力の向上につながった。 ・それぞれの研究会の目的を明らかにし、模擬授業を通して授業の組み立て方を検討し、授業整理会を通して授業への見方や考え方を深めた。	・研究テーマについて、長期的目標と短期的な目標をリンクさせ、計画的に研究を進める。 ・目指す授業像を「児童が主体となる授業」とし、具体的な姿を共有し、共通実践につなげる。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像 (児童生徒像) を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100				100					
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100				100					
			集計	100				100					
	指導力の向上	授業	①が80%を超える	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	88	88		0	77	84	7	・どの項目でも9割弱の児童が学習に向かい、授業に臨む心構えができているといえる。 ・自分の考えを書く力について、教師と児童の意識の差が埋まってきている。筋道を立てて書く指導や、思考の跡が残るノート指導等を通して、児童の記述力が伸びていると教師が感じているためと考えられる。 ・発表力・記述力について、中間評価後の改善策を共通実践に結びつけるのが難しかった。これから「児童の主体的な姿」と関連させて、実践につなげたい。	・「自分から学習する」児童の姿について、教師同士、教師と児童の間でイメージが異なっているため、共通理解を図っていく。 ・授業に落ち着いて取り組んでいるが、発表したり記述したりする表現力が弱い。まずは児童が自分の考えを表現できる場の設定、必要性を感じる問いについて考えていきたい。
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。	81	88		7	88	87	-1		
				③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	59	80		21	57	80	23		
				④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	53	85		32	60	83	23		
				⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	100	91		-9	100	89	-11		
				⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	94	94		0	94	96	2		
	学力調査	学力の定着	④を達成したクラスが100%	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	95				95			・学力向上に関する取組はそれぞれが目的や意図を理解して取り組めている。 ・国語、算数単元テストが共に8割80点の到達率は、53%のクラスだった。達成できなかったクラスには、国語か算数のどちらかで達成できているクラスもあった。算数に限れば、75%のクラスが達成している。	・国語の授業の指導の工夫により単元テストの80点到達者数は増加している。さらに指導の工夫をすることで国語の指導事項の定着を図っていききたい。 ・算数に関しては、計算技能とともに、思考・判断・表現力等の力の向上を図るために、思考を促す問いかけや表現する場の確保など授業展開を工夫していくようにする。
				② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	88				83				
				③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)									
④ 国語・算数の単元末テストで80点以上の児童の割合がクラスで8割以上である。				50				58					
家庭学習	①の割合が85%を超える	①自分で計画を立てて勉強している (3年以上)	① 自分で計画を立てて勉強している (3年以上)	100	87		-13	83	77	-6	計画を立てて学習している児童の割合は前期より低下した。これは、自分の決めた時刻に学習を始められなかったことを意味するので、自分の生活リズムにあった学習時刻を設定する必要がある。	学習を始める時刻は自分の生活リズムを考え、曜日ごとに設定することやうまくいかなかったら、学習開始時刻を変更するよう柔軟に対応し、毎日の家庭での学習を計画的に進められるようにしていく。	
			② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	100				100					
			集計	100				92					